

第 3 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0862
住 所 神奈川県川崎市川崎区浮島町12番3号
氏 名 日本物流センター株式会社
代表取締役社長 前田 茂 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 1 0 条第 1 項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日本物流センター株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町12番3号		
該当する事業 者の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の種類	大分類	H	運輸業，郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	冷蔵冷凍倉庫業・物流センター業		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		4,649 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	F A X 番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019年度～2021年度(報告年度2021年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

（1）計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 (2018 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)	目標排出量
排出量 (t -CO ₂)	(実) 9,274 (調) 9,021	(実) 8,774 (調) 8,531	(実) 7,882 (調) 7,625	(実) 8,960 (調) 10,083	(実) 8,996 (調) 8,977
削減率		(実) 5.4 % (調) 5.4 %	(実) 15.0 % (調) 15.5 %	(実) 3.4 % (調) -11.8 %	(実) 3.0 % (調) 0.5 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原 単 位 等 の 活 動 量		平均気温、入庫数量		原単位等の単位	t-CO2/℃・万ト
	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標とした値
	(2018 年度)	(2019 年度)	(2020 年度)	(2021 年度)	
排出量原単位等の値	234.7	221.5	203.8	227.9	227.7
活動量の値	39.5	39.6	38.67	39.3	-
排出量原単位等の削減率		5.6 %	13.2 %	2.9 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	電気使用量削減により温室効果ガスの排出量が5.4%、原単位が5.6%削減した。 電気使用量削減の要因として冷凍機運転台数の見直しによる運転停止時間の増加、低温商品の取扱が無くなった事による冷媒の温度上昇率低下した為。	
第2年度	電気使用量削減により温室効果ガスの排出量が15.0%、原単位が13.2%削減した。 電気使用量削減の要因として冷凍機運転台数の見直しによる運転停止時間の増加、低温商品の取扱が無くなった事による冷媒の温度上昇率低下、西面気密装置改修による庫内湿度、温度上昇率低下、事務所棟空調を更新した為。	
第3年度	電気使用量削減により温室効果ガスの排出量が3.4%、原単位が2.9%削減した。電気使用量削減の要因として低温商品の取り扱いが無くなったことによる冷媒の温度上昇率低下、南面機密装置改修による庫内温度上昇率が低下したため。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		2019～2021年の平均CO2排出量は8,539 t-co2(目標値8,996t-co2) となり3%の削減目標以上の成果となった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		今後もco2排出量削減に取り組む。(PDCAサイクル)

（2）温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	○推進体制の整備 ・部署単位で具体的な省エネ活動ができる仕組みを構築する。 ・省エネに関する研修体制を整備する。 ・定期的に省エネ推進委員会を開催し、対策や課題等について周知を図る。 ○主要設備等の保全管理 ・電力使用割合の高い設備を主体に設備単位によるエネルギー管理等の徹底を図る。 ○冷凍設備の省動力化 ・冷凍設備の冷凍機本体や2次冷媒&熱交換器の省動力化を費用対効果で検討する。 ○エネルギー効率の高い業務用機器の選定 ・フォークリフト用バッテリーは劣化が進んで効率が低下する為、買換えを進める。 ○建物の保守管理 ・バースシャッターのシール関係の更新を行い断熱性向上に努める。 ○空調設備の更新 ・事務所棟エアコンの更新を行い省電力化を図る。	
第1年度	○推進体制の整備 ・定期的に省エネ推進委員会を開催し、対策や課題等について周知を図る。 ○冷凍設備の省動力化 ・冷凍設備の冷凍機本体や2次冷媒&熱交換器の省動力化を費用対効果で検討する。 - 冷凍機更新に向けて6社によるプレゼン会を開催、内容を元にメーカー選定を開始。 ○エネルギー効率の高い業務用機器の選定 ・フォークリフト用バッテリーは劣化が進んで効率が低下する為、買換えを進める。 - フォークリフト32台入れ替え実施 ○建物の保守管理 ・バースシャッターのシール関係の更新を行い断熱性向上に努める。 - 西面12バースをドックシェルター化、オーバードア更新実施し外気侵入量、結露発生頻度低下。 ○空調設備の更新 ・事務所棟エアコンの更新を行い省電力化を図る。事務所棟1、2、3、6階の更新実施。	
第2年度	○推進体制の整備 ・定期的に省エネ推進委員会を開催し、対策や課題等について周知を図る。 ○冷凍設備の省動力化 ・冷凍設備の冷凍機本体や2次冷媒&熱交換器の省動力化を費用対効果で検討する。 - 冷凍機更新に向けてメーカー決定、更新詳細を決定（2021年6月着工、2022年6月完了予定）。 ○エネルギー効率の高い業務用機器の選定 ・フォークリフト用バッテリーは劣化が進んで効率が低下する為、買換えを進める。 - フォークリフト28台入れ替え実施 ○建物の保守管理 ・バースシャッターのシール関係の更新を行い断熱性向上に努める。 - 南面32バースをエアシェルター化、オーバードア更新実施し外気侵入量、結露発生頻度低下。 ○空調設備の更新 ・事務所棟エアコンの更新を行い省電力化を図る。事務所棟4、5、7、8階の更新実施。	
第3年度	○推進体制の整備 ・部署単位で具体的な省エネ活動ができる仕組みを構築する。 ・省エネに関する研修体制を整備する。 ・定期的に省エネ推進委員会を開催し、対策や課題等について周知を図る。 ○主要設備等の保全管理 ・電力使用割合の高い設備を主体に設備単位によるエネルギー管理等の徹底を図る。 ○冷凍設備の省動力化 ・冷凍設備の冷凍機本体や2次冷媒&熱交換器の省動力化を費用対効果で検討する。 ○エネルギー効率の高い業務用機器の選定 ・フォークリフト用バッテリーは劣化が進んで効率が低下する為、買換えを進める。 ○建物の保守管理 ・バースシャッターのシール関係の更新を行い断熱性向上に努める。	
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	2019～2021年の平均CO2排出量は8,539 t-co2(目標値8,996t-co2)となり3%の削減目標以上の成果となった。	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	平成25年に倉庫棟屋上に太陽光発電設備を設置、運用中
風力		
バイオマス		
未利用エネルギー		
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	規模：1,000kW、導入場所：東京事業所倉庫棟屋上	9年
	2021年度太陽光発電実績 1,388,702kW/h	

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	×
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	×

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

計 画	1. グリーン購入の推進を行う 2. 事業所内でのアイドリングストップの促進 3. 廃棄物の減量化・分別化の推進を図る。 4. 川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）への参加を行う。 5. フォークリフトバッテリーの購入を実施し、充電に関わる電力を削減する。 6. 冷凍機の省エネ改良の可能性を検討する。 7. 冷凍保安技術講習会に参加し、冷凍機の省エネ技術を学習する。
第1年度	1. 事業所内でのアイドリングストップを促進した。 2. フォークリフトバッテリーの購入を実施し、充電に関わる電力を削減した（64台）。 3. 冷凍機の省エネ改良の可能性を検討する為6社によるプレゼン会を開催しメーカー選定を開始した。 4. 冷凍保安技術講習会に参加し、冷凍機の省エネ技術を学習した。 5. 事務所棟エアコンを更新し、消費電力を削減した（追加実施、全8階の1、2、3、6階を更新）。
第2年度	1. 事業所内でのアイドリングストップを促進した。 2. フォークリフトバッテリーの購入を実施し、充電に関わる電力を削減した（28台）。 3. 冷凍機の省エネ改良の為機器更新工事を計画、5系統中1系統の冷凍機更新に向けてメーカー決定、更新詳細を決定、2021年6月着工、2022年6月完了予定。 4. 冷凍保安技術講習会に参加し、冷凍機の省エネ技術を学習した。 5. 事務所棟エアコンを更新し、消費電力を削減した（追加実施、全8階の4、5、7、8階を更新）。
第3年度	1. 事業所内でのアイドリングストップの促進 2. フォークリフトバッテリーの購入を実施し、充電に関わる電力を削減する。 3. 省エネ型冷凍機の導入。A側冷凍設備の更新（2021年6月着工2022年6月完工） 4. 冷凍保安技術講習会に参加し、冷凍機の省エネ技術を学習する。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

（1）事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	9,274 t-CO ₂	8,774 t-CO ₂	7,882 t-CO ₂	8,960 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	4,877 KL	4,682 KL	4,305 KL	4,649 KL
事業所の数	1	1	1	1

（2）事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
東京事業所	神奈川県川崎市川崎区浮島町12番3号	9,274	8,774	7,882	8,960

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量（t-CO ₂ ）			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度